

紹介

米國の婦人労働状態に就て (一)

Women's Bureau. United States Department of
Labor. Women in the Economy of the United
States of America. Bulletin No. 155.
Washington, D. C. 1937.

家庭以外に於ける婦人の労働問題は主として産業革命を契機として表面化したのであるが、これが歐米各國の國策として眞摯な態度で取組まれるに至つたのは比較的最近のことである。而も各國はその異なる國情と推移する國際情勢に支配されてその對策を講じつつあり、儼然と一貫した對策を有する國家は今假りに米ソ獨等を除くにしても皆無に等しい現狀であると云つて過言ではあるまい。我が國に於ても國策的見地から近時漸くこの問題の重要性が社會の關心を促しつつあり、その徹底的對策の樹立が要請されつつあるのであるが、一般の認識は云はずもがな、識者及び當局の間にも未だ見るべき對策の乏しさが聊たれてゐるのである。これは一には問題の性質が非常に複雑多岐且つ廣範圍に亙るためと考へられるのであるが、世界未曾有の大動亂の只中にある我が國の人類史上に有する使命

をも併せ考へる時、今にして掛聲のみならぬ斷乎たる對策を講ぜざるに於ては、その對象が民族保存の大半の責務を擔ふ母性を包含するものであるだけに悔ひを百年の後に殘すことなきかを憂ふるものである。

婦人の労働力を最も徹底的に且つ大量に動員しつつあるのはソ聯であるが、これは資料其の他の關係で暫く措き、ここではソ聯を除き世界で最もこの問題に常時より關心を示しつつあるかに考へられる米國の實情に就て參考までに資料の許す範圍内で少しく觸れてみたいと思ふ。因に米國は一九二〇年労働省内に婦人局を設置して爾來婦人労働に関する凡ゆる問題を捉へて検討し、労働問題對策に協力せしめてゐるのである。本稿に引用せる資料は國際労働局の要請に對する報告のため、同局の調査研究にかかるものであり、その眼目が婦人の労働状態を鮮明にし問題の所在を探索せんとするものであるだけに、平素世人が米國とさへ云へば聯想する浮薄な華やかさはなく、寧ろその程度こそ異にすれ、世界人類の半ばを占める女子獨特の國家的乃至は民族的要素を超越した共通點をさへ如實に、而して質實に示してゐるのである。

以下數回に亙つて紹介を試みんとする本稿の内容は原著の題名の示す如く主として婦人労働と國家經濟の關聯を闡明せんとするもので二部に分れ、第一部は自活する女子の生活内容を扱ひ、職業界の動向、失業、賃銀に關して、第二部は女子に關する労働立法とその影響を扱つてゐる。今回は第一部の中、職業の動向と失業に關して紹介することにする。

A. 婦人労働とその經濟的意義

一、米國に於ける女子職業界の動向

職業別人口とその推移

米國は一九四〇年に第十六回國勢調査を施行してゐるのであるが、職業別構成は未發表であるのでその數字は使用不可能であり、ここでは一九三〇年のものによる他に方法がない。一九三〇年現在に於ける國勢調査による女子職業人口及びその割合は左の如くである。

米國女子職業別人口(1930)

個人被傭人員	3,180,251	29.63%
事務及機械工業	1,986,830	18.51%
製造及專門的職業	1,886,307	17.57%
專門的職業	1,526,234	14.22%
商業	962,680	8.97%
運輸	909,939	8.48%
交通運輸	281,204	2.62%
總計	10,733,445	100.00%

女子總人口に對する割合 17.70%

女子有業人口は別表の示す如く一〇、七三三、四四五人で、女子總人口六〇、六三七、九六六人に對する有業人口の割合は一七・七〇%であつた。これは一八七〇年の有業人口の約六倍であり、一九二〇年度の女子有業者に比較すれば十年間に二六%の増加を示してゐるのであるが、而も一九三〇年現在に於て尙十歳以上の女子人口に對しては約二〇%餘が有業者であり、九人の有業者中七人までは男子で残り二人が女子であると云ふ低率振りを示してゐる。換言すれば女子人口十人中八人は所謂無職者なのである。然し米國の九五%の世帯は使用人無しで家政を處理して居り、後述の如くこれら二千四百五十萬人の主婦の勞力は賃銀に換算されざるものであるが、それが國家の經濟生活に如何に重大なる意義を有するかは云ふまでもないことである。

家庭から職場へと遷り變る産業的時代相を物語るものとして左の若干の數字は興味がある。即ち米國獨立當初の著名な政治家アレキサンダー・ハミルトンは一七九一年に地方別により三分の二、四分の三又は五分の四にも及ぶ住民の被服布地は全部女子の手によつて家庭内で織られてゐたと稱してゐる。一八一〇年の國勢調査によれば五千一百五十萬弗の綿布及び毛織物は大部分家庭に於て紡がれたのであるが、一八四〇年のこれらの生産高は二千九百萬弗に減少してゐる。一八一六年頃にも未だ家庭の主婦は屢々、その手で刈取つた羊毛や自作の麻から紡いだ布地で家族の衣類を調達

米國の婦人勞働狀態に就て

してゐた。然し一八三一年に紐育に於て産業有志協議會が開催された當時は三萬九千人の女子が各地の紡績工場に從事してゐたのである。爾來女子の家庭内の勞働は文明利器の發達に伴つて漸次減少し、生産方面に進出せる有業人口は左記の如く女子人口そのものの増加率にも増して上昇を示してゐるのである。

女子有業者率	女子人口増
1870—1880	44.2
1880—1890	51.3
1890—1900	32.8
1900—1910	51.8
1910—1920	5.9*
1920—1930	25.8

* 國勢調査日時の變更と計算方法の出入りがある。斯かる關係を考へられたい。

にとつて特筆すべきものであつた。紡績工場が最初に開かれたのは一七八九年のロード・アイランド州に於けるそれであり、機械織機は一八一四年に導入されて爾來機械は工場作業となつたのである。十九世紀中葉には裁縫ミシンが實用化され、多くは女子によつて使用されるに至つたのである。

斯くの如き發明の數々は從來の女子の家庭生活様式に影響するところが少くなかつたのである。家庭内で細やかな女性の手を要する日常茶飯事の量が著しく減少すると同時に、工場では機械の導入と共に夥しい人手を要するに至り、この要求に應じて職場に進出する女子の數が増大して行つた。當時の女子勞務者の特質を窺ふものとして米國初代大統領ワシントンハポストン市の一紡績工場の女工を指して次の如く評したと傳へられてゐる。

る。「彼女等は衰頹家族の娘達であり、品性高き女性である。其の他の者は一切雇傭されまい」と。

企業心勃々たる事業家達は從來家庭内にあつて直接金錢に無縁であつた女子の勞働力に低廉なる賃金を支拂ふを常とした。然し當時は未だ家庭外の勞働に従事する婦人の職業は極めて小範圍に限られてゐたので、その低廉なる賃銀も貧困階級の婦人達の生計を維持するに充分であるとの議論が優勢であつた。

婦人を家庭外の勞働に進出せしめる他の一の理由としては初期植民地時代と異り、特に大都市に於て女子人口が男子のそれを超過してゐたことが擧げられる。これは一夫一婦制度の社會に於ては多數の女子が結婚の機會を逸することを意味し、これらの老嬢達は初期の工場に就働することにより、ささやか乍らその収入によつて暮しを立てて行けたのである。

十九世紀初期の工場賃金の報告によれば機械工の若干の例外を除き週給四弗を支拂はれる女子は皆無に等しい状態であつた。當時男子の週給は四弗五十仙から五弗が一般標準であつた。斯かる女子の低賃銀は勞働市場に於ける男子の収入減を來すものとしてその怨嗟をかひ、一八六〇年代の一勞働機關紙は企業家達が賃金の上昇を防ぐ手段として男子の半額程度のみより支拂はれない女子勞働者を男子に代替せしめんとするもの多きを懇へてゐるのである。

過去五十年間の機械類の發明とその應用に伴つて發達した微細に互る分業化は機械の運用のみに止らず、實驗所及び職場に於ける技術への要望、經營上の組織、雜務の増加、配給、販賣及び新規に増加されて行く幾多の生産物資の擴張等に多大の勞働力を要求するに至つた。

この工場的大量生産的傾向はその經營及び事務陣容の充實に伴ひ、農村

より都市への流動人口に拍車をかけ、その歸結として人口の稠密、雜居、家族人員數の縮少及び住宅、食糧問題、娛樂等に關する社會問題續出し、その對策樹立の問題が展開されてゐる。この生活の都市化が如何に大規模なものであつたかは、獨立當初の人口八千以上の都市居住者は米國全人口の三%に過ぎなかつたにみても明かである。

人口の都市集中の必然的結果として從來問題とされず、或は夢想だにされなかつた家政の社會化と云ふ現象が展開されてゐる。アパートメント生活、ホテル及び公共食堂數の増加等々とそれらの經營に要する類似の職業の發達がこの運動に伴ふ結果的現象であつた。

その結果として農業人口が激減したことは云ふまでもなく、農耕技術とその組織は著しく改良され、多種類の大規模農場、農村を對象とする農産物仲介者、少年少女俱樂部の指導者等は屢々、公共事業として州より援助され、又國庫の補助を受けることも少くなかつた。

斯かる諸方面の發展と關聯して交通運輸業及び販賣業の發達著しく、それらに伴ふ新發明又は文明利器の發達は幾何學的速度で續出し、特にラジオの完成と電話施設の擴張は交通運輸關係の從業者數を激増せしめてゐる。

生活様式の複雑化、迅速を尊びその能率化に集中する一般にテンポの速い現代生活は、從來豫想だにされなかつた幾多の個人を對象とする職業を發達せしめた。斯かる發達が如何に女子の職業に影響したかの例を示すものとして美容師の激増があり、洗濯業者の増加がある。これらも亦機械の發達と共に進歩した職業部門なのである。

以上に於て述べた如く、多くの職業部門では筋肉勞働及び在來の手工業より俸給生活者として精神勞働部門への一大轉換又は進出が行はれた。これは専門的職業への著しき進出を示し、技術及び職業教育への要求を激増

せしめたのである。

女子の地位が漸次向上して來たと云ふことは必ずしも經濟的原因によるものではなく、主として女子教育、女子の能力とその地位に關する社會的思想及びその態度の變化に起因してゐるのであるが、本稿に於ては紙面の都合もあり、その問題の抽象的紹介は差控へることにする。

女子教育の普及と共に多數の女子が教員、社會事業家、速記者、タイプスト、事務員、技師及び廣汎に互る俸給生活者としての職業分野に進出するに至つたのは當然の歸結と言ふべきであらう。斯くて女子有業人口は漸次増加の一途を辿つてゐるのであるが、左の職業部門に於ては一九一〇年より一九三〇年に至る二〇年間に各十萬人以上を増加してゐるのである。

家事 使用人 看護婦 女工(紡績)
事務員(商店を除く) 店員 女給 仕
速記者及びタイプスト 帳簿係及び現金出納係 交換手

廣範圍に互る生活様式の變化と女子教育の普及は女子の職場への進出に拍車をかけ、既述の如く一九一〇年以來三三%の増加を示し、一八七〇年の女子有業者に比すれば六倍となつてゐる。而して一旦職場に進出した女子の多くは經濟的原因からその職場を固守する傾向を見せてゐるのである。

現在では十歳以上の女子人口の二〇%餘は主として家庭外の有業者であり、その職業部門は非常に廣汎に互つて居り、米國の國家的經濟機構の一重大要素を爲してゐるのである。一九三〇年に於ける女子有業人口が一千七十五萬に及んでゐるにみても如何にこの問題が重要性を帯びてゐるかが明かである。然し乍らこれを諸外國のそれに比すれば米國の女子有業人口の割合は左程の高率ではないのであつて左はその若干の例である。

米國の婦人勞働状態に就て

國名(調査年次)	年齢	女子有業人口	全有業者中の女子割合
イギリス及びウエルス(1931)	14歳以上	5,606,043	29.7%
フランス(1926)	11歳以上	7,837,776	36.6
聯邦(1933)	不明	7,066,900	37.7
米國(1930)	10歳以上	10,752,116	22.0
ドイツ(1933)	全女子人口	11,479,041	35.4
日本(1930)	全女子人口	10,589,403	35.8
イタリア(1936)	全女子人口	5,246,991	28.6

註 フランスは1931年の女子有業人口は7,900,348人で1926年と大差なく、計算方法も不明のため舊い数字を使用した。尙本表中ドイツは1925年(11,478,000 35.9%)より1933年の数字に改め、日本、イタリアに關するものも筆者の追加せるものである。

女子有業人口の増加は五の主要職業部門に於て顯著であるが、一九一〇—三〇年の二〇年間に事務、専門職業、商業の部門では倍加し、家事及び個人被傭人は二五%、女工は四〇%増加してゐる。又その反面に下表の示す如く製造工業は著しく減少してゐるのである。

女子有業人口配分率

	1880	1910	1930
農業及び類似産業	22.5	22.4	8.5
製造及び機械工業	23.8	22.5	17.5*
商業及び交通運輸	2.1	7.3	11.6
事務員	.3	7.3	18.5
専門的職業	6.7	9.1	14.2
家事使用人	44.4	31.3	29.6
公職(他に分類さざれるもの)	.2	.1	.2

米國に於ける職業分野の變遷の特徴として農業人口の激減と、事務、特殊専門職業及び商業人口の著しい増加を擧げ得るのであるが、左記の統計は各部門に於ける一八八〇、一九一〇及び一九三〇各年度の變化を示すものである。

女子有業人口増加率	1910—1930
全職業	33.1
家事及び個人被傭人	25.7
事務的職業	237.5
製造及び機械工業	3.6
主要手工業	65.3
女工業	39.7
商業	103.7
専門的職業	107.7

* これは主として仕立屋其他の舊式手工部門の減退を示すもので、製造工業は時と共に増加してゐるのである。

多數の女子が職業戦線に進出したと言ふことはその職業配置が男子と同等であることを意味するものではなく、雇傭状態は云ふまでもなく異つてゐるのである。

一九一〇年以來女子の有業人口は三分の一の増加を示して居り、男子の同期間に於ける増加率に比して稍、大なのであるが、一九三〇年度の男子有業人口は女子有業人口の三倍半であつた。従つて男女の職業分布状態に著しい差異のあるのも當然なことである。即ち男子の職業部門をその重要性に従つて記せば工業、農業及び商業で男子有業人口の七〇%がこれらの部門に就働してゐるのであるが、女子のそれは家事及び個人被傭人、事務員、工業、専門的職業の順序である。後者の職業部門には女子有業人口の八〇%が従事してゐるのである。

最も多數の女子が従事する五の職業部門中男子の有業人口を凌駕してゐるものは僅かに家事及び個人被傭人のみである。事務員は略、男子と同數であり、専門的職業に於ても男子のそれと大差はないが、後者の場合は多數の女教員が含まれてゐることに原因してゐる。機械工業及び商業では女子一人に對して男子は五人以上の割合を示してゐるのである。

	男子數に對する100人女子	
	1910	1930
全職業	373	354
家事及び個人被傭人	48	56
事務員	192	103
製産及び機械工業*	485	648
職工	162	167
工場労働者	2,404	1,740
商業	669	532
専門的職業	133	113
人口半的職業(助手、手傳、娛樂、専門的職業を除く)	128	104

* 建築業を除く。この分野の數字は382及び516であつた。

一九一〇年以來女子は家事及び個人被傭人の部門で男子に比し、

稍、減少して居り、工業及び技術方面(中女工は極く僅かである)では著しく減少してゐる。これらの部門では一九一〇年のそれに比して一九三〇年現在の女子百人に對する男子數はより多くなつてゐる。次に主要なる女子雇傭職業部門に關する變遷及びその分布状態に就て少し検討してみる。

家事及び個人被傭人——女子有業人口中この部門に最も多く集中し、一九三〇年には三百萬以上の女子が従事してゐた。この部門には在來の女中奉公も含まれてゐる。

この反面には美容院の如き急激に發達した新分野もある。近代社會生活に伴ふ異常なる移動性及び工場、商業組織等は家庭經濟に大變化を來し、ホテル及び料理店等の發達を著しく促進してゐる。

各國勢調査年度の家事及び個人被傭人の分類方法は幾分異つて居り、従つて各年度に於ける正確なる比較は不可能である。然し大體の實情はそれらの數字によつて窺ひ得るのであつて一九三〇年には一九一〇年に比して二五%の増加を示し、それ以前の増加はより大であつた。時代的經濟的傾向を反映する職業は特に増加率が著しいのである。その一例として洗濯所以外に於ける洗濯婦の數は一九一〇—三〇年間に三分の一近く減少してゐるが、同期間に洗濯所の従業員數は倍加してゐる。其他の増加状態は別表の如くである。

	女子有業人口増加率	
	1910—1930	
家事及び個人被傭人	25.7	
料理人及び其他の使用人	34.1	
女給	170.4	
家政婦及び女家令	36.4	
ホテル、料理店及び下宿管理人	10.4	
産婆及び看護人(非熟練)	22.2	
理髮師、美容術師	407.6	

一九一〇—三〇年間に女子は家事及び個人被傭人數の減少を示してゐるに反して、

男子はホテル、料理店は勿論家庭に於ても料理人其他の使用人に稍々増加の傾向を見せて居り、ホテル、料理店、下宿業者に著しい増加を示してゐる。これに反して女子は洗濯従業員、給仕、美容術師として男子に比し著しい増加振りを見せてゐる。これらを性別に比較すれば左表の如くである。

事務的職業——一九三〇年には二百萬近く
の女子がこの部門に従事して居り、女子有業者
中第二位を占めてゐる。

	女子100人に對する男子數	
	1910	1930
家事及び個人被傭人	48	56
料理人及び其他の使用人	24	26
給仕	119	70
洗濯従業員	40	30
ホテル、料理店及び下宿管理人	74	99
理髮師、美容術師	776	231

一八九〇年に比して一九三〇年の本部門の
女子従業者は十六倍（一九二〇—三〇年のそ
れは四〇％）と云ふ驚くべき増加率を示して
ゐるのであるが、これは既述の如く主として
現代の經濟機構が高度に産業化し商業化せる
に負ふ所多く、それに伴ふ諸般の事務取扱ひ
は女子に好適の職業であるによるものであ
る。斯かる機運の到來は必然的に女子に對す
る教育機關の解放設置となり、社會の女子教
育に對する態度の變更にも著しく拍車をかけてゐる
のである。上記の表は近時に於ける女子の事務的職
業への進出状態を示すものである。

事務的職業	女子有業人口増加率	
	1910—1930	
速記者及びタイピスト	237.5	
事務所書記	194.4	
帳簿係及び現金出納係	476.0	
	153.7	

現在では事務的職業は主として女子の職業分野と
見做されるに至り、その實數に於ても男女の従業者は
略々均等の割合を示してゐるのである。のみならず、
家事及び個人被傭人、工場では男子に讓歩してゐるに
拘らず、本部門では女子が頗る優勢なのである。

米國の婦人勞働状態に就て

タイピスト及び速記者はこの種職業の創始と共に殆んど女子の手によつて占められ、一九三〇年には女子二〇人に對して男子一人の割合であつた。近年は帳簿係及び現金出納係としても女子が著しく頭角を現してゐる。男子は事務員として女子に比し尙優位を示してはゐるが、その地位は近年著しく低下し、一九一〇年の女子一人に對する男子五人の割合は一九三〇年には女子一人に對し、男子は二人足らずとなつてゐる。これらの關係は左表によつて明かにされてゐる。

事務的職業	女子100人に對する男子數	
	1910	1930
速記者及びタイピスト	192	103
事務所書記	20	5
帳簿係及び現金出納係	487	183
	不明	16
	144	59

製産工場に於けると等しく、事務所に於ても
機械的装置により作業を著しく分業化せしめる
傾向がある。即ち集計、圖表作製、簿記及び勘定
書、宛名書き、複寫等々の廣汎に互る事務所用
機械の使用は女子の適職とされ、その係員數は
一九三〇年の國勢調査に初めて報告されたので
あるが、これによると、男子一人に對して女子
六人の割合で後者が甚しく優勢を示してゐるの
である。

製産及び機械工業——女子有業人口中第三位
を占むる部門である。本部門は女工の外に建築業及び裁縫其他の手工業を
含んで居り、一九三〇年の従業者は約二百萬足らずであつた。この部門全
體としての女子人口は最近稍々減少してゐるのであるが、これは女工數よ
りも手工業のそれに於てであつた。工場以外の主として家庭及び小工場に
於て爲される作業中、一九一〇—三〇年間に減少した女子人口の割合を示
せば左の如くである。

これに反し工場に於ける女子従業員、特に女工數は同期間に左の如く著しい増加を示してゐる。

女子有業人口の減少率

	1910—1930	1920—1930
婦人服裁縫師(工場以外の)	64.7	32.9
婦人帽子屋及び婦人装身具商	67.2	42.4
男子服裁縫師	46.6	31.5

女子有業人口増加率

	1910—1930	1920—1930
女工及び工場労働者	40.8	52.0
女労働者	39.7	8.6
男労働者	56.6	26.1*

* ここでは稍減少してゐる。

に於て著しい進出振りを見せてゐるのである。

然し今これを男女の雇傭關係に就て比較してみれば、女子の地位は過去二〇年間に相當の退歩を示し、事務方面への進出と對蹠的現象を示してゐるのである。一九一〇年には本部門では女子一名に就き男子の割合は五人以下であつたものが、一九三〇年には六人以上となつてゐる。女子百人に對する男子の有業人口は次の如くである。

女子100人に對する男子數	
1910	485
1920	565
1930	648

對する男子の有業人口は次の如くである。
 繊維及び被服製產業に於ける女工の實數は男工のそれを凌駕して居り、一九二〇年及び一九三〇年には葉卷及び煙草製產業に於ても同様であつた。この間男子は纖維工業、電氣機械、化學的製品、製紙、護謄工業に於て稍、その従業員數を増加し、女子は被服、製靴、食料品、煙

一九一〇—三〇年間に半熟練工としての女子従業員は纖維工業に於て多少に拘らず増加し、被服、食料品、製靴、電氣機械、化學、護謄及び金屬製品製造工業等に於ては著しく増加してゐる。國勢調査資料によつて比較し得るもののみをとつてみても一八八〇年のそれに比して一九三〇年には女子の工場労働者は各產業

草及び或種の金屬工業に於て増加してゐる。

女子100人に對する男子數

	1910	1930
業	79	89
工場	124	159
供給工業	191	307
類似工業	107	161
工場業	203	280
工場業	63	41
工場業	205	157
工場業	256	153
工場業	111	53
工場業	1,467	972
工場業	235	198

する行商人の絶えぬことは都市在住の主婦の等しく認めるところである。

一九三〇年には約百萬足らずの女子がこの部門の有業者であつた。近年に於ける當部門の變化は左の如くである。

然し乍ら一般的には商業は女子の適職とは見做し難く、男子の活躍分野であると云ふべきであらう。とは言へ近年に至つて女子のこの部門及びその類似事業方面への進出は男子を凌駕してゐることも亦事實である。勿論現在と雖も尙女子一人に對して男子は五人以上の割合であるが、一八八〇年のそれは男子十九人に女子

商業——本部門に於ける女子有業人口は過去二〇年間に倍加して餘りある激増振りを示してゐるのであるが、これは大量生産とそれに伴ふ高度に組織化された金融制度の反映と考へられるのである。のみならず、多種多様の販賣方法が發達して、土地ブローカー及び保險外交員の如きも多數進出し、商店内に於ける賣捌きにも増して販賣能率をあげてゐるのである。戸毎を訪問

一人と云ふ低率に過ぎなかつたのである。この女子の激増は特に土地ブローカー及び職員、保険外交員の進出に俟つところ多く、店員の地位に關しては男女間の雇傭關係には殆ど變化は見られない。次の數字は女子を多數雇傭する本部門内の男女數を比較したものである。

業	男子數に對する100人女子	
	1910	1930
事務員	669	532
商店員	249	239
小賣員	1,681	1,446
土地保險	4,200	655
その他	3,387	1,884

職業	100人男子に對する女子數	
	1910—1930	1910
專門的職業	107.7	133
專門家	100.7	128

(專門的職業を除く)
(半業者、手傳人、手及助手及び
(及娛樂機關從業者)

專門的職業——事務員の部門と同じく專門的職業に於ても男女の有業人口は略々均等の割合を示してゐるのであるが、質に於ては未しの觀あり、教員と看護婦を除いては女子は主として助手及び半專門的職務に従事してゐるのである。一九二〇—三〇年間に於ける變化は男女共通のものであつた。女子教育の普及がその適應性と共如何に女子の職業に顯著な影響を及ぼしてゐるかは俸給生活者群としての專門的職業及び事務員の二部門が略々男女同數であるに對して、製産及び機械工業部門では女子一人に對して男子六人以上の割合であるにみても明かである。一九一〇—三〇年間に事務員の部門を除いて女子の實數に著しい増加振りをみせてゐるものに本部門に及ぶものなく、商業がこれに次いで第三位を占め二〇年間に二倍以上となつてゐる。一九三〇年には百五十萬以上の女子が本部門に就働してゐたのである。一九一〇年以來の増加率と男女雇傭の關係を示せば上の如くである。

この女子進出の内容を更に詳細に検討してみる

と、その増加は主として從來より女子の傳統的適職とされてゐる教育と看護の二方面に限られ、單に増加の一〇%が女子手傳人、助手又は半專門的職務に進出してゐるのである。

一九一〇年以來半專門的職業又は手傳人、助手として女子の増加率は男子を凌駕してゐるが、より高級なる職業、例へば法律家、著述家としての女子の進出は數的には寥々たるもので、男子が斷然優位にある。注目すべき現象として擧げられることは、醫師及び外科醫としての女子の雇傭が一九一〇年以降二五%減少してゐることである。

專門的職業十六種の中(一九三〇年に五萬以上の有業人口を報告せるもの)齒科醫、製圖家、辯護士及び判事、牧師等の職域内にある女子人口は極く少數である。婦人技師は皆無に等しい状態であるので特にここでは考慮されてゐない。教育及び看護事業は大體女子の手に限られ、男子にして

業	100人男子に對する女子數	
	1910—1930	1910
教師	+79.1	25
醫師	+58.7	269
美術師	+40.3	121
音樂師	-5.8	65
外科醫	-24.3	1,576
その他	+2.6	3,090

この分野に従事する者は非常に少數で、一九一〇年以來看護婦の數は三倍以上となつてゐる。

前記六種の特種職業分野に於て女子の増加率は大體現状維持又は稍々男子に讓る状態であつた。尤も中一種のみは女子が優位にあり、その實數も増加してゐると云はれるが何れの職業であるかは不明である。學校教員は男子一人に就き女子四人以上の割合で、二〇年間に八〇%に垂んとする増加振りを示してゐる。この方面の職業上の推移は上表數字の示す通りである。

十六種の主要職業中二種に於て、女子はその増加率に男子を凌駕してゐるのみならず實數に於ても過去二〇年間に増加してゐる。

女子有業人増加率	女子100人に對する男子數	
	1910	1930
401.1	80	40
277.4	8	2

除く)に於ては一九一〇年以來女子の進出には量質共に目醒しいものがある。然し前述の如く男子に比すれば女子の數は尙僅かで例へば一九三〇年に於ける法律家の數は男子四六人に女子一人と云つた割合であつた。次の數字はその實狀を示すものである。

女子有業人増加率	女子100人に對する男子數	
	1910	1930
506.6	20,456	4,645
274.2	8,420	5,363
185.2	722	335
580.6	430	208
378.2	17,128	4,444

農業——この部門の女子有業人口は僅かに女子全數の八・五%で一九三〇年には農業及び類似の分野に従事してゐるものは百萬未満の状態であつた。經濟情勢の一般的傾向の線に沿ひ農業も過去二〇年間に約半數の減少を見せてゐる。尤も一九一〇年に一五%であつた女子地主及び小作人は極く僅か減少してゐるのみである。

一九三〇年には男子は一〇人以上となつてゐるのである。註 女子官公吏に關する資料は未完成のため、本稿に於ては發表されてゐない。

女子有業人増加率	女子100人に對する男子數	
	1910	1930
49.6	599	1,078
3.8	2,145	2,189
87.6	547	6,880
57.6	307	580

家庭の主婦として以上に於て述べた諸項は米國の十歳以上の女子有業人口に關するものであつた。

其他の七五%の女子人口中には十六歳以下の者多數あり、妹や娘として家政に關係のない者も少くないが、然し大多數の女子は家庭の主婦である。次の數字はこれらの關係を示すものである。

女子數(單位百萬)	
有業人口	
總數(10歳以上)	10.75
主婦(16歳以上)	3.92
家庭に在る者	.76
家庭外居住者	3.15
無職者	
總數(10歳以上)	38.02
10歳—15歳	6.87
16歳以上(主婦以外の者)	6.67
主婦(16歳以上)	24.48

即ち米國に於ける家族員數二人以上よりなる二百五十萬世帯の戸主は女子であり、中約百萬世帯の女子は家庭外に働く主婦なのである、二百五十萬世帯中、五八%は少く共二一歳以下の子一人を有し(年少の子女に關する數字は不明である)、一八%は三人の子持であつた。

國家經濟機構中主婦の占める地位の重要性—多方面に互る女子有業人口の經濟的地位其他に關しては比較的多くの資料が蒐集されてゐるのである

が、家庭の主婦としての女子の經濟的地位に關するそれは非常に貧弱なのである。然し多年に亙る經濟的不況は主婦が如何に家庭生活に對して大なる貢獻を爲しつつあるかに就てその重要性を再認識せしめたのであつた。

主婦の家事に費す時間を賃金に換算し、或は彼女が家庭に於て生産する品々、手製の貯藏食料品等を市場で購入する場合に比して貨幣價値に換算するとすれば、彼女の經濟的貢獻は莫大なものである。

このやうな意味から一經濟學者は「若し家庭内の活動によつて生産される凡ゆる物資を貨幣價値によつて表現し得るとすれば、その國家的意義に比すれば、鐵道乃至は銀行事業も取るに足らぬ存在とならう」と云つてゐる。

家庭の主婦の經濟的地位は一の變則としての存在である。即ち彼女の勞働力は決して市場に現れず、彼女は市價制度の埒外にありながら、而も家庭内の生産者として凡ゆる社會に於てその經濟生活に絶對的地位を占め、多大の貢獻を爲しつつあるのである。それのみではない、彼女の消費物資生産方面に及ぼす影響は少くなく、更に彼女の主婦としての手腕はその家族員の家庭外に於ける生産能力を決定的に支配してゐると言つても過言ではない。而して彼女の消費經濟擔當者としての生活標準乃至理想は、食料品、家具等を含む廣汎に亙る商品生産に對して重大な意義と莫大な經濟力を有してゐるのである。

大多數の家庭は女中なしである——一九二九年は米國が好況時代の絶頂にあつた年とされてゐるのであるが、當時に於てさへ使用人を有するものは全國世帯中僅かに五%に過ぎなかつたと云はれてゐる。殘餘の九五%の家庭に於ては主婦が殆ど唯一の勞働力の源泉であり、家政の切盛りを一手に引受けてゐるのである。その家政の切盛りの上手、下手、注意深き關心を

米國の婦人勞働狀態に就て

示すにせよ、無頓着にして除けるにせよ、又は農家の主婦であれ、都市の主婦であれ、大學卒業者であつても、無學の者であつても、この國家的繁榮期間であつてさへ、女子が家事に費す時間數はその環境と個性の如何を問はず、驚くべき一致振りを見せてゐるのである。而して常に物質文明の尖端を行く米國に於てすら婦人局當局は主婦の過勞と言ふことが未だ過去の歴史として葬り去られてゐないと云ふ事實を指摘してゐるのである。

最新式家庭用設備にも限度がある——最新式の家庭用品が市場に續出し、幾多の勞力節約用の調度品が發達してゐる米國ではあるが、大多數の家庭はそれらの一少部分を取入れ得る程度であり、或はそれらの恩恵に殆ど浴し得ぬ階級も少くない。一九三〇年度の國勢調査に従へば一世帯の平均人員は約四人である。この家族持ちの多くはその所得で從來の生活様式を維持するに追はれて多額の經費を要する新式調度品等の用途に當てる剩餘金は持合せないのである。このことは一九二九年度の米人家庭の平均收入が全世界世帯の約七五%に相當する一千九百萬家族に於ては年收二千五百弗以下であり、一千六百萬以上の家族は二千五百以下であつたにみても明らかであると言ひ得るのである。

この年收二千五百弗以下の一千九百萬の家庭の主婦は臺所は在來の既設のものを使用しなくてはならない。新築家屋に住む者、又は不況時にも拘らず夫が比較的富有な者である場合に限り、經濟的で主婦の勞働に便利な新式設計になる臺所を設備し得るのである。イリノイ州に於て簡單なる改善方法奨励のために施行された臺所實驗所の一三七件の研究によれば臺所の平均壽命は三五年で中、一二%は建築後七〇餘年を経た舊式家屋に設備されたもので、僅かに一〇%が建築後十年以内のものであつた。

家事に費す時間——一般産業部門に於ける勞働時間が一週四〇時間制に

ならうとしてゐる現在、家庭の主婦の一日が如何に長時間に亙るものであるかを聞いて驚く人があるかも知れない。米國農業省家政局の調査によれば一般家庭の主婦が家事に費す時間は一週平均五〇時間で、子女のある農家のそれは七三時間である。今日の主婦の仕事が往年のそれに比して安易化されたかと云へば強ちさうとは云へないのである。即ち彼女の祖母の時代には往々獨身の叔伯母や姉妹が家事を手傳つてゐたのであるが、今日では同様の境遇の人達が起居を共にしてゐるにしても、それらの人々は家庭外で就働してゐるので家事に携はり得る人手は以前に比して減少してゐると云ふことは兎角忘れられがちである。

多くの主婦の家庭に於ける時間は依然として一日三回の食事、家の掃除や手入れ、洗濯、繕ひ物等の日常雑務に消費されてゐる。一般的には主婦には休暇も祭日もなく、彼女の務めは一週間は七日であり年中無休なのである。

先年家政局が若干の大學調査班の援助を得て調査したものに、二千餘名の主婦に一週中の數日間、日々の時間の消費経過を記録せしめたものがある。大多數は農村乃至農園の主婦であり、少數が町や都市の主婦であつた。この中一週四二時間を費すのみの者は僅かに六分の一で、六分の五はそれ以上を費してゐる。大半以上は四八時間餘を、三分の一は五六時間以上を費し、全數に對する一週の平均は五一時間餘であつた。

都市の家庭に於てさへ料理のためのみに一週二二時間を費して居り、農家はより長時間をこれに費してゐる。掃除、洗濯、アイロン掛け等が殘餘の時間で爲されてゐる。

大都市の主婦ほど家事に費す時間は少くなつてゐる。即ち人口五萬以下の小都市の主婦は一週平均五一時間を費してゐるに反して、人口五萬以上

の大都市では四八時間を、中僅かに一〇%の主婦が家事に一週三五時間以下を費してゐるに過ぎないのである。

九五〇名の農家の主婦に關する調査によれば家畜の世話、牛乳搾り、野菜園の手入れ等を含む彼女達の家政に費す時間は一週六二時間以上であつた。この調査は大體中産階級の主婦を對象としたものであり、全国各地に在する彼女達の生活様式及び時間の消費量は驚くべき均一振りを示してゐるのである。又家政局の協力の下に行はれたパーネル財團の數州に於ける同様の調査によれば、五州の農村主婦の平均労働時間は一週六〇時間以上であつた。

調査家族數	平均世帯數	一日平均消費時間數		農の時間		他事分	
		家事に費す時間	のみ時間	時間	分	時間	分
農家(25州)	559	4.3	7 23	1	22		
地方在住非農家(22州)	249	4.0	7 21	0	39		
都市(43州及コロンビア區)	692	4.0	6 52	0	18		

一般都市世帯の平均人員數は四・一人で農村のそれは四・四人であるが、都市及び農村の主婦が食事の準備以外に費す時間數は略等しく、掃除に七・五、洗濯に五・二五、繕物に一・五、裁縫に四・五時間を費してゐる。都市の主婦は農家のそれに比して一週中數時間を多分に子女の世話及び買物に、又料理及び後片附に費す部分は數時間少くなつてゐる。

其後家政局によつて集計されたこれらの記録分類に従へば上表の如き數字が擧げられてゐる。

幼兒のある農家の主婦の労働時間總數は約六六時間で一歳未満の乳幼兒のある場合は七三時間に及んでゐる。夫婦のみの世帯では五六時間以内であつた。又一歳未満の乳幼兒のある家庭の主婦が子供の世話に費す時間は一週二二時間

で一〇——一四歳の年齢層に於ては一週一時間半以内であつた。

米國東部の某女子大學卒業者にして全國の人口二、五〇〇以上の都市在住の七〇〇世帯の主婦に關する調査に従へば、彼女等は一五歳以下の子女を有し、家事に費す時間は一週約五二時間であつた。この中一三時間は子供の世話に費してゐる。彼女達の八〇%は一週平均三〇時間の女中其他による家庭内の手傳を得てゐるのであるが、この援助に對して一週五時間を計畫、買物其他に關して使用者のために費して居り、而も殘餘の大部分を依然食事の準備、後片附、掃除、洗濯、繕物等に費してゐるのである。これらの主婦は大體中産階級に屬する人々でその臺所には近代設備を施してゐるのであるが、尙且この状態であることを思へば家庭の主婦が未だ主として家庭内の人たるの感を深うするのである。

上述の子女の世話に費された時間の報告中には子供達と共にした散歩、自動車散策其他の娯樂に費したもの、子供の保健を目的とする運動等は含まれてゐない。即ちこの時間は主婦の閑暇の時間として計算され、報告されてゐるのである。

大學卒業生が主婦である夫婦のみの世帯では一週三六時間を家事に費してゐるのであるが、これとて餘暇の仕事とは稱し難い實狀にある。

一九三六年一月號の Journal of Home Economics 掲載の全國代表的地域にあり、多大の農村人口を擁する別表四州の農家の主婦に關する調査に従へば、世帯人員數、女中の有無、臺所設備様式等の詳細に互る實狀は不明であるが、主婦の遂行しつつある労働状態は何處に於ても類似のものである。彼女達の國家經濟に及ぼしつつある影響が如何に莫大なものであるかを窺ひ得るのである。

	オレゴン	南ダコタ	モンタナ	紐育
數	57,754	83,628	49,152	176,440
主婦數	288	100	92	139
1 週間 時間 數				
業數目	60.26	63.88	62.70	58.70
度附	49.77	52.99	53.53	51.88
整理	16.95	17.05	17.00	17.35
後片	7.50	8.85	8.42	8.50
一般家屋	7.55	8.60	7.85	8.25
燃料、用水	1.05	1.87	1.25	2.28
洗濯	3.60	3.41	3.42	3.17
アイロン	2.00	2.53	2.01	2.18
被服整理	3.01	3.57	4.25	3.63
縫物	2.64	1.72	2.75	2.52
世話	3.82	3.72	4.58	2.43
其他處	1.65	1.67	2.00	1.57
農場	10.49	10.89	9.17	6.82

主婦の地位に關する意義——家庭に於ける主婦の任務には主觀的な解釋が附されがちであり、事實その範圍外に出ることの困難を感ぜしめる幾多の複雑なる條件を具備してゐるのである。然し、先年米國大統領夫人エリーノア・ローズヴェルト女史が主婦に對して月給制度の實施を提唱して世人の注目を惹いたことがあるが、世上この種の理念を抱く人が皆無ではないのである。次に原著記載の一、二の例を擧げて參考に供したいと思ふ。

ラーフ・ホルソデイ夫人は著名な一經濟學者の夫人であるが、十五年間に互つてその近代的設備を有する臺所で生産コストを科學的に記録してゐる。それによると彼女は主婦が家族のために食事を準備し、繕詰其他の方

法で食料品を貯藏し、パンや洋菓子を焼き、洗濯することによつて、實質的に産業界に男子の貢獻する經濟價值と同等のものを生産することを實證してゐる。原料品、材料、燃料、勞働力等を貨幣價值に換算すると主婦の一週間の収入は五弗乃至二〇弗であつて、その額の多寡は主婦が市場の生産品によらず家庭で生産する物品の多少、家族人員數及び生活程度によつて決定される。一九三六年のある一ヶ月間の商店より購入せる食料品支出額と、翌月家庭に於て生産せる同様品種に就て比較せるものによれば、市價二一弗一八仙、家庭生産費一〇弗八二仙、家庭で料理することによる節約額一〇弗三六仙となつてゐる。

北部ミシガン州の一農家の主婦が三〇年間に互つて記録せるものによると、この間彼女は約二三五、四二五回の食事を準備し、これを一回十五仙と云ふ非常に廉價な勞力單位で計算しても三萬五千弗と云ふ額になつてゐる。その一ヶ年の平均額は約一、一六七弗で、これを彼女の勞力の三分の一を代表するものと假定すれば、その年額は三、五〇〇弗以上となる。斯かる方法による計算に従つて若干の例を示せば主婦の勞働は上表の如き經濟的内容を有することに於けるのである。

支度品	數	勞力價值位	30年間勞力價值
燒子イ物	35,400	0.05	1,770
菜果物	5,930	.10	593
詰家庭勞働	7,960	.05	398
縫(枚數)	1,525*	.50	762
濯(個數)	3,625	.25	906
除(時間數)	3,190	.50	1,595
裁洗掃	177,525	.03	5,331
其他	35,640	.10	3,564

* ブツシエル數。一ブツシエルは我が約二斗一升餘に當る。

斯様に中産階級以下の主婦の勞働内容は略、類似のものであるが、その環境、個性、

趣味等によつて家政の様式に變化のあるのは云ふまでもなく、又如何に科學的に計畫せる家庭生活に於ても往々にして不時の事故等の突發することは免れない。豫算に弾力性のあることが必要であり、育児、保健等にも外部の補助よりも主婦の手腕に俟つこと甚大である。要するに主婦は斯くの如く國家の經濟面に多大の意義ある貢獻を爲しつつあり、かてて加へて其の他の方面に、夫を始めその家族をして社會の有用人物たらしめるために、明朗にして情操豊かな家庭生活を築き指導する大任を有することを思へば、その存在には凡ゆる角度よりより、高き社會的認識の與へらるべき性質のものである。

二、女子の失業に就て

第二次大戰開始以來、特に最近米國が民主主義國の兵器廠を以て任ずるに及び、軍需工業の活潑化と共に女子の勞働力も勿論動員され、このことあるを豫期して政府當局は逸早く雇傭條件に關する注意事項を告示したほどであり、一九三七年當時の状態が現在のそれと異つてゐるのは言を俟たないのである。然し本研究は第一次大戰後の經濟状態を反映してゐるものであり、今次大戰後のそれに對しても亦示唆するところは少くないので、本項はその意味に於てのよき資料であると思ふ。

一九二九年末に始まつた極度の不況時代は女子にも左の如く多大の影響を及ぼしてゐるのである。

- 一、そのため多數の女子が失業してゐる。
- 二、収入減に對して凡ゆる方法を講じて生活程度を切詰めてゐる。
- 三、男子の失業乃至収入減への對策として從來無職者たりし多數の女子が就職するに至つてゐる。

女子失業者に關する全國的な統計には信頼するに足るものなく、多く

の場合推定によるものであり、性別の判明せぬものもあるのであるが、以下の數字は参考資料として使用されたものである。

女子の失業範囲—婦人局及び各地に於ける調査研究に従へば不況の略、最悪状態にあつた頃全國には少く共二百萬の女子失業者があつたと云はれてゐる。これは女子有業人口の約二〇%に相當するものである。

政府發表の全國十九大都市に關する不況當時の統計は當時の状態を如實に物語るものであるが、これは女子全有業者の二〇%餘に匹敵し、これらの都市では一九三一年一月に平時の有業人口中、男子二六・二%、女子一八・九%が失業してゐたことを示してゐる。

其他の調査に於ても略、同様の結果が現れてゐる。中央非常時救濟管理法の一九三四年の報告によれば人口二、五〇〇以上の都市在住の女子要救濟者は常時女子有業人口の約三〇%であつた。

不況時初期の多くの調査の示すところによれば、大體女子の失業者數は男子のそれに比して低率なのであるが、女子を多く雇傭する産業部門、例へば電気工業、毛織物や毛絲製品、或種の食料品工業等では云ふまでもなく女子がより多く失業の憂目に遭遇してゐるのである。

のみならず、一九三〇年の國勢調査に従へば女子失業者の一〇%は世帯主であり、これらの世帯では彼女等が唯一の家計の支持者なのである。

一九三三年十月に中央非常時救濟管理法は農村救濟世帯中の一二%は女子が戸主であつたと報告してゐる。

特殊産業部門に於て多數の女子が就業してゐる場合、女子が男子以上に失業してゐることを示す例として左の統計がある。即ちペンシルヴァニア州には多數の女子を雇傭する大産業があるが、ミシガン州では主として男子産業陣が優位であり、従つて前者は女子、後者は男子がより多く失業に

悩んでゐるのである。

	マサチューセツツ	ミシガン	ペンシルヴァニア
全人口中の失業者率	28.9	20.0	25.9
全失業者中の男子失業者率	24.5	15.3	28.2
男子失業者中の女子失業者率	26.4	19.9	27.2
女子失業者中の女子失業者率	21.1	14.5	30.6

全人口中の失業者率
全失業者中の男子失業者率
男子失業者中の女子失業者率
女子失業者中の女子失業者率

米國職業紹介所が一九三四年七月一日より一九三六年六月三〇日に至る二ケ年間に同機關利用者を分類したものに依れば、女子の就職希望者は約三百萬人で全數の二七%を占めてゐた。一九三〇年の國勢調査による女子の有業人口は全有業人口の二二%を占めてゐたのであるから、右の數字は女子失業者の比較的大なるを暗示するものとして注目されるのである。

就職希望者	1936年7月		就職希望者	1930年國勢調査	
	人員	%		人員	%
合計	50.9	100.0	合計	100.0	100.0
人員	15.5	30.4	家庭事務	29.6	29.6
及工業	10.8	21.2	個人事務	18.5	18.5
職業	5.6	11.0	機械及工業	17.5	17.5
類似	4.8	9.4	專門的職業	14.2	14.2
他	12.3	24.2	其他	9.0	9.0
			其他	11.2	11.2

七月に官立機關を通じて就職の申込をした女子の大半は雇人であり、六七%は事務又は雇仕事の希望者であつた。是は反映してゐるのである。一九三六年であり、その職業別分類にもこの事實は反映してゐるのである。一九三六年七月に官立機關を通じて就職の申込をした女子の大半は雇人であり、六七%は事務又は雇仕事の希望者であつた。然し男子の八〇%は生産労働者、熟練工又は労働者でこの三分野の比率は大體等分であつた。

不況時の女子失業者の多くは上表の如く雇人であつた。

全就職希望者中雇人及び店員としての女子の割合は常時全有業人口中の同種職業部門にある女子の割合よりも左の如く大であつた。

職業希望者の割合	1936年7月
人員	65.4
業務及職	46.9
類似業務	28.8
製機	27.6
工業	4.2

人口中の割合	1930年
人員	61.2
業務及職	49.4
類似業務	46.9
製機	15.8
工業	13.4

特殊産業状態又は慣例による女子雇傭の減少——國家の産業状態の變遷に伴ひ、勞働力の需要供給の關係も變化するのが一般的現象である。不況時には事業不振のため雇傭が減少し勞働者の地位は不安定となる。而してこの状態は程度こそ異なれ男女共に影響を受け、場合により又は特殊産業方面に於ては女子がより甚しく、或はより廣範圍にその影響を蒙つてゐるのである。斯か

る實例は時間性勞働、季節的又は特殊産業組織による勞力需給の變動及び急速に遷り變る技術的變化によつて生ずる事業上の衝擊等による場合に多く見られるのである。

時間雇ひ——一般就業時間以内の時間數で就働する時間雇ひには少く共次の三の型がある。

一、定期時間雇ひとして、一日幾時間を、又は一週中の數日、又は兩者を兼ねる者で共に一般有業者以下の時間數就働する者

二、不定期時間雇ひとして、臨時雇ひ、代理又は豫備勞力に、又クリスマスに際して一般商店、郵便局等に雇傭される者

三、諸種の原因による變動の結果としての不定期雇ひ——例へば季節、天候、流行の變化等に影響される産業の性質によるもの、勞働力の供出状態、工場内の勞働力流動及び註文の増減等の状態に支配される者

多くの商店では一週幾日或は一日數時間と言ふが如く臨時雇ひを使用し

てゐる。料理店に於ても出納係や給仕に對してはこの雇傭制度を有し、低賃金を支拂ふを常としてゐるが、この方面の時間雇ひ従業者は大體女子である。商店に於ける豫備勞力としての臨時雇ひは女子商業組合同盟の役員による未發表の研究によれば一ヶ年十二週間乃至十四週間就働するのみである。

一九三三年度初期に於けるペンシルヴァニア州の失業状態調査によれば女子生産人口の一五%餘及び男子の一七%近くは時間雇ひであつた。又一九三一年五月—六月に於けるコネクティカット市の全有業人口中一五%は女子時間勞働者であつた。

不規則なる雇傭状態——時間雇ひが他の一般雇傭状態と異なる點はその雇傭人員數が時と共に變化して行くことである。多くの産業ではそれは多分に季節的色彩を帯びてゐるのであるが、この季節的性質と關係の深い部門は又被服、食料品製産業等に見る如く、主として女子従業者が大多數を占むる分野なのである。これらの多くは一年の中のある時期が最も多忙であり、同様の状態が年々繰返されて行くのである。果物、野菜類等の罐詰は特殊地方を除いて大體八、九月頃がその絶頂の時期である。製菓事業はクリスマス及び復活祭以前、肉類貯藏は一月より三月まで、煙草の除莖作業は早春及び眞夏がその季節である。クリスマス季節に於ける百貨店の眠まぐるしさは周知の事實である。これら及び類似の職業部門は多く女子の活動分野なのである。

平均年週就業數	一九三六年秋期の女子商業組合同盟の報ずるところに從へば、女子を多數雇傭する産業部門
25	靴服袋子刷業
40	靴服袋子刷業
30	靴服袋子刷業
(約)	靴服袋子刷業
24	靴服袋子刷業
26	靴服袋子刷業
35	靴服袋子刷業
26	靴服袋子刷業
41	靴服袋子刷業
27	靴服袋子刷業

工業 靴服袋子刷業

につた。

製被手帽印織 雇傭指數の示すところに從へば一年を通じて

雇傭状態は時と共に變化してゐるのであるが、時間雇ひの範圍はこれのみでは明かでない。婦人局の研究になる女子の多數従事する四産業に就て見れば、一ヶ年中女子の雇傭状態が如何に甚しく變動するかを示してゐる。左は上下兩極端の雇傭範圍を示すものである。

指 数	雇 傭	
	一年中最	一年中最
133	44	77
166	72	85
132		
115		

業 場 (1931)
 業 場 (1928)
 業 場 (1934)
 業 場 (1927)
 業 場 (1931)
 業 場 (1933)
 業 場 (1933)
 業 場 (1933)

多くの重要産業部門に於ては雇傭の變動は男子以上に女子に甚大な影響を及ぼしてゐる。婦人局の報告によれば、十六ラジオ工場に於ける受信機製作作業の従業員中、好況時代の絶頂とされる一九二九年を通じて女子の雇傭が男子以上の減少を示してゐるのである。

これは女子が閑散期に男子以上に失業してゐたことを意味するのみならず

男子 (1929)	女子
16,439	14,935
6,848	5,169
9,591	9,766
58.3	65.4

男子	女子
2,640	2,172
988	479
1,652	1,693
62.6	77.9

最數最數の割合
 一九二七年に於ける布哇のパ
 イナップル罐詰工場に就ても
 言へるのである。

最數最數の割合
 一九二七年に於ける布哇のパ
 イナップル罐詰工場に就ても
 言へるのである。

技術的變遷による移動——技術上の變化と勞働力には不可分の關係があるのであるが、新發明にはそれによつて失業群を出すものと、その作業上

の必要から更に多數の勞働者を要するもの二者がある。斯かる場合女子は往々にしてこの新發明による機械が彼女等の勞力を驅逐するために失業することが多いが、反面又熟練工が機械の發明によつて失業し、單調なる工場作業に女子が代つて従事するに至ることがある。時には又新産業や新事業の勃興によつて多數の女子が就業することもある。

技術的變化による女子の大量失業の例に就て婦人局の調査せるものに葉巻作業がある。一九三〇年以前に本業に従事せる者にして失業中の女子一千餘名の中、九六%はその勤務工場の閉鎖によるものであつた。これは主として其他の工場に斬新なる設備の改善が行はれたために合併を餘儀なくされたものであつた。これらの女子の大半はこの職場に十年以上を、二〇%は二〇年を費した者であつたが、三三%餘は機會を失して再び同様作業に従事し得ぬ人々であつた。國際葉巻業者組合の推定によれば一九一九—三三年間に約二二、〇〇〇人の葉巻工場従業員が失業してゐるが、これは生産によるものでなく、純全たる技術的變化によるものであると云はれる。

婦人局は更に多數の女子を雇傭する二五〇件の各種工場内に於ける技術的變化を研究してゐる。これらの變化は主として一九二七—三一年間に生じ、斬新なる機械又は用具の設置、勞力節約方法の導入等によるものであつた。その作業に従事せる勞働者數は六、〇〇〇餘名であつたが、前記諸改善實施後六ヶ月にしてその數は四四%に減少してゐるのである。これは工場生産額の減少によるものではなくして、全く技術的的改革によるものである。

斯かる事實を如實に物語る例として現時廣範圍に使用される日常用品——食料品、粉石鹼其他の填材、包装に一工場では從來四八人の女子を雇傭してゐたが、設備改善後は二〇人に減少した。他の一例は塀の貼紙、包装用

の機械は従來一五人であつたものが、改善後は六人となり、而もその生産量は少人数で従來の一二倍となつてゐる。

或る職場では前例のない女子の半熟練工を雇傭するに至つたが、その反面全従業員数は七五%に減少してゐる。これは従來二二人の男子熟練工を使用した自動車の筋附作業であつた。改善後は僅かに五人を要するのみで中男子一人、青年女子四人となつてゐる。

斯かる實例は枚擧に遑ないほどで、長期に亙る工場施設の改革は深甚なる影響を各方面の産業陣にある男女労働者の上に及ぼしてゐるのである。

左は女子に最も關係深き若干の例である。

製針——従來女子九人で監督してゐたもの、現在は女子一人である。

紙箱作り——紐育市の雇傭人員は三三%減少し、一九一四——二五五年間に従業員一人の生産額は一二%に増加してゐる。

電話交換臺——新英蘭の一大都市に於けるダイヤル様式の改善は従業員を半減した。

堅焼ビスケット箱包装——従來女子三人が手で一分間に九箱を包んでゐたもの、現在は女子二人が機械で五五箱を包装する。

穀類の包装——従來女子二二人が一日一七、〇〇〇箱を包んでゐたもの、機械では五人が同様の仕事をしてゐる。

洗濯——従來敷布は女子二人がアイロン掛け以前に手で絞つてゐたもの、現在は機械で爲される。

タイプ打ち——女子一人が三箇の電力タイプライターを使用し得る。

自動車用座蒲團作り——従來印附、かぶり綴、綿挿入等は女子の手に俟つたもの、現在これらは全部機械で爲される。

これらの例を擧げてゐれば際限がないのであるが、同時に亦現在では未

だ女子が單にこの技術的變化のみによつて如何なる範圍に影響されてゐるかに就てはその詳細は不明である。又従來男子熟練工によつて爲されたものが機械の導入と共に女子の半熟練工によつて代替されるに至つた職種の範圍も明かでない。

前記婦人局の二五〇件のみに就て見れば、設備改善のために女子の雇傭は四二%減少してゐる。然しこれは勿論極限された分野に關する研究であつて全般的事情を物語るものとは斷じ難く、反面従來例なき新部門への女子の大量進出は右の減少を償ひ得て餘りあるものかも知れないのである。前記の葉巻産業の失業者中六〇%は其後何等かの職業に再び就職してゐるのであるが、充分に安定した職に就き得た者は一〇%餘に過ぎない。

多くの調査や推定によれば近年従來より有業者であつた多數の女子が失業してゐるのであるが、再び相當恒久性ある職業部門に就職する者も少くない。然しこの間に在つて機械及び施設の改善、工場組織又は生産様式の變更等によるものと、特殊産業に於ける生産額減少による失業との關係は判然としてゐないのである。

男子の代替に就て——不況時に女子が男子の失業を助成してゐるかとの質問が屢、繰返へされる。而してこの質問は近年に至つてより緊迫性を帯びて來つたかに見える。これに對する根本的解答は多くの場合、男女の適職は異つて居り、従つて女子が男子の職場を犯すといふやうな現象は一般には生じてゐないと思惟されてゐる。

このことは散在する若干の資料にみても明かだ男子にしても女子にしても同じ職場で異性と競争すると言ふ現象は特筆する程度には生じてゐない。特殊産業部門に於て作業様式變更のために女子が男子に代ることがあるが、この場合の理由は大體女子の賃銀が低廉であるに起因してゐるので

ある。女子の昇給及び適當なる最低賃銀の實施は性別による移動の有力なる防止策と見做されてゐる。

第一次大戦當時男子の勞力が大量に女子によつて代替されつつあつた際、紐育州に於ける諸産業に關して州勞働課産業婦人部によつて爲された特殊研究によれば、調査された工場主の八〇%は女子の勞働が満足すべきものであり、或は代替した男子以上に好成績であると斷言してゐる。然し乍ら、斯くの如く女子による生産額が男子のそれを凌駕した場合に於ても女子は同工場に於て男子以下の賃銀を支拂はれてゐるのである。

最新式の機械、新しき作業様式及び新組織の絶えず導入される職場に於ては失業は不斷の現象であり、男女共にその影響は免れ得ないのである。只時に女子がより多く、或は男子がより多い場合があるのみである。ペンシルヴァニア州の一九三四年度の失業調査に於ては女子三一%に對して男子は二七%のより低い失業率を示してゐたのである。又新式作業様式に對する新規雇傭は性別によつて制限はされてゐないのである。

全國産業會議委員會は勞務關係の一大調査機關であるが、その女子有業者及び勞力供出の研究に於て次の如く述べてゐる。「これらの資料の示す範圍では不況時に於ける女子勞務者の雇傭が男子の失業を増加すると言ふ結論に到達すべき何等の實證も擧げられてゐない」。

イリノイ、紐育、オハイオの大産業地區を爲す三州の雇傭者統計を不況前及び不況時初期に互る一九二八—三一年間に及んで調査したものであると、當時失業者が續出しつつあつたにも拘らず、女子が如何なる産業又は職業部門に於ても男子と代替したと云ふ傾向は一般的には見られないのである。

尙又國勢調査の統計に従へば重要な女子雇傭産業及び職業部門に於て

女子有業者が高率を占めるに至つたのは最近の不況時に際して生じた現象でないことを示してゐるのである。即ち主要部門に於て女子有業者が最高率を示してゐた國勢調査年次は左の如くである。

女子の最高率を占めし年	同年度に於ける女子の割合	全有業者の割合
1900	20.2	
1900	82.3	
1900	48.9	
1900	73.2	
1910	51.8	
1910	23.3	
1910	34.4	
1920	84.5	

全製産及び機械工業
雇人及び給仕
綿布製産業
メリヤス工場
全織維工業
製紙及び印刷業
電機及び電氣器具
(1900年は報告なし)
學校教員

一九三〇年に女子が大多數を占めてゐた職業は、左の三部門に分類し得るのである。

全有業人口中女子の割合

1930

女子が長期間に互り就業せるもの	割合
被服	70.1
電話濯務	94.5
洗滌	73.8
仕事	49.4
女子職業として比較的組織の新たなもの	
理髮師及び美容術師	30.2
女子が長期間就業せるもの不況時に著しく減退せるもの	
製靴	37.8
葉卷及び煙草	59.9
食料品工業	21.6

註 本稿に於ては資料未完成のため、女子の結婚其他の理由と失業に關する研究は含まれてゐないのである。(大月照江)